

# 義務教育学校の視察結果のとりまとめ

## 1. 視察の概要

---

### 1) 目的

今回の視察は、本検討委員会委員が義務教育学校に関する特徴を把握するとともに、一定規模を超える児童生徒が在籍する学校における運営状況を確認して、義務教育学校のメリット・デメリットについてより多角的に議論できるようにすることを目的に実施しました。

全国で初めて義務教育学校として整備され、開校から10年が経過した守口市立さつき学園と、児童生徒数が1,000人以上であり、今年度開校した交野市立交野みらい学園の二校を視察しました。

### 2) 参加者

- ・各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会 10名
- ・各務原市(教育長・教育委員会事務局職員 5名)

### 3) 視察行程

当日は以下のスケジュールで視察を実施しました。

表 視察行程

日時	視察先
令和8年1月26日 9時30分～12時00分	守口市立さつき学園
13時30分～15時00分	守口市役所
令和8年1月27日 9時30分～12時00分	交野市立交野みらい学園

## 2. 守口市立さつき学園の概要

守口市立さつき学園は平成28年4月1日に開校した全国で初の義務教育学校です。さつき学園では、後期課程から前期課程への乗り入れ指導により、実技教科を中心に専門的な授業が行われていることや、学校独自の教科として、コミュニティ・スクールを軸とした「ふるさと学」を行っており、地域の中で学ぶ教育を実践していることが特徴です。

表 施設概要

学校名	守口市立さつき学園
所在	〒570-0055 大阪府守口市春日町13番26号
学校の特徴や現場の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年の区分は「4-3-2」制</li> <li>○4年生までは、学級担任制(45分授業)</li> <li>○5年生からは、教科担任制(50分授業)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数、理科、体育、家庭科、図工、音楽を教科担任制で実施</li> <li>・このうち、音楽は2年生から、外国語は3年生から専科指導</li> </ul> </li> <li>○運動会は、体格差等を考慮し3部制             <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部(1、4、6年生)、2部(2、3、5、6年生)、3部(7~9年生)</li> <li>・2部運動会では、6年生は競技はせず、運営を担当する</li> </ul> </li> <li>○1~9年生で集団登校しており、リーダーは6年生が担う</li> <li>○「地域の人が集える部屋(地域支援室)」や「放課後子ども教室」が学校建物内にある</li> <li>○義務教育学校では、次のようなメリットを感じている             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の業務及び意識の変化</li> <li>・中1ギャップの緩和や解消</li> <li>・柔軟なカリキュラム</li> <li>・異学年交流</li> <li>・教員間の情報共有による継続的な指導</li> </ul> </li> <li>○課題はあるがデメリットは無いと感じている</li> </ul>
校舎	鉄筋コンクリート造5階建て (教室は4階まで、5階部分はプールと菜園)

表 児童生徒数(令和7年5月1日現在)

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	合計
児童生徒数	98人	85人	81人	82人	55人	78人	58人	63人	73人	673人
通常学級数	3	3	3	2	2	2	2	2	2	21

※児童生徒数には、支援学級児童生徒数を含む

出典:守口市教育委員会・守口市立さつき学園

Ⅷ 校舎配置図



図 教室配置図

## さつき学園の様子



【低メディアセンター】  
(低学年用図書室)



【廊下から見た学校の様子①】



【廊下から見た学校の様子②】



【教室の様子①】



【グラウンドの様子】



【教室の様子②】



【理科メディアコーナー】

### 3. 交野市立交野みらい学園の概要

交野みらい学園は旧交野小学校跡地を活用し、交野市初の施設一体型義務教育学校として整備されました。児童生徒数が1,000人以上の大規模校であることや、例えば図書室を独立した「部屋」とせず、オープンなメディアモール型空間として整備することで、義務教育学校ならではの9年間を通した探究的な学習環境を支える施設整備となっていることが特徴です。

表 施設概要

学校名	交野市立交野みらい学園
所在	〒576-0052 大阪府交野市私部1丁目54番1号
学校の特徴や現場の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年の区分はスリーステージ制を基本としているが、行事や学習内容に応じて、柔軟に切り替えて運用している</li> <li>○4年生までは、学級担任制(45分授業)</li> <li>○5年生からは、教科担任制(50分授業) <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育、家庭科、美術の後期課程教員が乗り入れて、前期課程を指導している</li> <li>・上記以外の教科は、学年の担任及び担任外で教科担任を実施</li> </ul> </li> <li>○運動会は、体格差等を考慮し前期課程と後期課程で分けて実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会やその他行事において、6年生の活躍やリーダーシップの育成は対応できている</li> </ul> </li> <li>○「地域の人が集える部屋(地域支援室)」や「放課後子ども教室」が学校建物内にある</li> <li>○義務教育学校では、次のようなメリットを感じている <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の校長における大きな責任は感じるが、組織運営が一つにまとまることができるとともに、教育目標も浸透させやすい</li> <li>・上級生が低学年の児童を気遣うようになり、優しくなった</li> </ul> </li> <li>○規模が大きいため、日常における細かな事案はあるが、デメリットは感じていない</li> </ul>
校舎	鉄筋コンクリート造4階建て

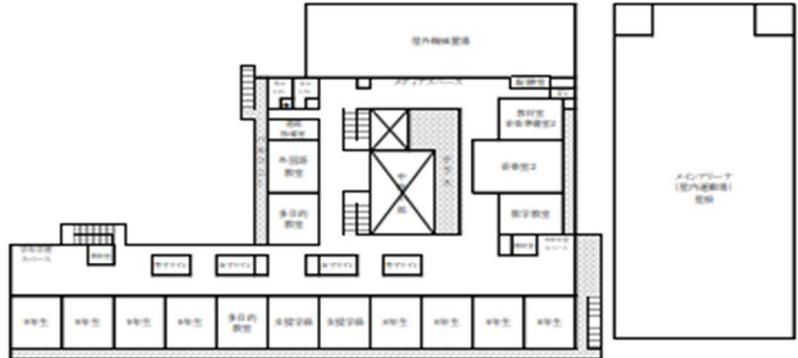
表 児童生徒数(令和7年5月1日現在)

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	合計
児童生徒数	129人	121人	139人	130人	120人	136人	117人	104人	115人	1111人
通常学級数	5	4	4	4	4	4	3	3	3	34

※児童生徒数には、支援学級児童生徒数を含む

出典: 交野市教育委員会・交野市立交野みらい学園

# 教室配置図 (予定) 4F



# 3F



# 2F



# 1F



所在地 〒576-0052  
 交野市私部1丁目54番1号  
 電話 072-896-8971  
 (令和7年4月1日より開通)

★ バリアフリートイレ

図 教室配置図

出典:交野市 HP\_交野市立交野みらい学園 保護者説明資料

## 交野みらい学園の様子



【メディアスペース】



【廊下から見た学校①】



【メディアモール】



【3階テラス】



【教室の様子】



【デン】



【廊下から見た学校②】



【廊下から見た学校③】

## 4. 視察結果

今回視察に同行された検討委員会の委員の方々に視察に関するレポートの作成を依頼しました。

児童生徒の様子については二校とも落ち着いた雰囲気での授業を受けていたという意見が大半でした。

授業の様子については二校とも教科担任制を導入していることで、前期課程の段階から専門的な教科指導を受けることができ、中1ギャップの軽減にも効果的ではないかといった意見がみられました。

教育環境についてはソフト面では地域ともにある学校づくりが進められているといった意見や前期課程と後期課程が一緒となった教員の組織づくりが進められているといった意見がみられました。ハード面では二校ともスペースにゆとりがあり、「自由に活用できる空間」があるといった意見がみられました。

義務教育学校のメリットについては、異学年交流の実施や中1ギャップの軽減、9年間の教育の一貫性、前期課程における教科担任制の導入といった意見が多くみられ、養護教諭の複数配置が可能になるといった教員配置に関する意見もみられました。一方でデメリットについては、特にないという意見が大半でしたが、小学校と中学校の両方の教員免許の取得や先生同士のコミュニケーションに関する懸念が一部意見としてみられました。

総括の中では敷地面積が狭くてもデザインによっては十分な整備が可能といった意見や1,000人を超える大規模の義務教育学校でも学校運営に特別な難しさは想定されないといった意見がみられました。

### 1) 守口市立さつき学園

#### ● 生徒の様子と学校の雰囲気（異学年の関わり、学校全体の活気や落ち着きなど）

- ・落ち着いた雰囲気だった。（複数回答）
- ・義務教育学校であることを活かし、異学年交流が行われている様子がよくわかった。
- ・コミュニケーション能力を高められる学校と感じた。

#### ● 授業の様子（教科・学年、指導の工夫※教科担任制や乗り入れ、学年間の指導内容の入替や前倒し、独自教科など）

- ・後期課程の教員が前期課程の授業を担当するなど、教科担任制が定着していた。
- ・ファーストステージ（1～4年生）に授業規律の確立が目標になっているが、地域と協力し合って総合的な学習を行っているのはキャリア教育やふるさと教育を推進するものであり、本市でも強化すべきと感じた。

#### ● 義務教育学校のメリットとして感じたこと

- ・後期課程の生徒が前期課程の児童を教えたり、支援したりすることが日常的に行われることにより、後期課程の生徒の自覚が高まるなどの効果が大きいことを強く感じている。（複数回答）
- ・中1ギャップがないということが大きなメリットであったと思う。（複数回答）
- ・9年間の教育が一貫性を感じられる。（複数回答）
- ・生徒指導上のトラブルが減り、不登校児童生徒の減少が期待できる。

● **義務教育学校のデメリットとして感じたこと**

- ・特にない。(複数回答)
- ・6年・3年の区切りがない為、式典などが減ることは、保護者としては物足りないのではないか。
- ・大阪府では、小学校と中学校の両方の教員免許を保有する割合が低いため、更なる教育環境の向上に向けては、人材を集める必要があることが課題として挙げられる。

● **教育環境の内ソフト面(学校運営など)について感じたこと**

- ・時間割の編成、地域との連携体制が充実している。
- ・地域活動が学校を支援していることで、学校を核とした地域づくりに役立っている。
- ・先生たちの意識を変えるのは大変だと思うが、少しずつ丁寧に変化を促していくところが見られた。
- ・現状の子どもたちの様子を知り、目指す子どもの姿を全員で考えることができるため、小中の先生の交流はとても良いと思った。

● **教育環境の内ハード面(施設・設備など)について感じたこと**

- ・スペースにゆとりがあり、特に前期課程の教室は横幅がかなり広いなど、他の学校とは全て異なる工夫がなされていた。
- ・余白となるスペースが多くあり、ゆとりが感じられた。オープンスペースがあり、自由に使える空間で学びを深められる教育ができるのはよい。これを有効活用するために、学校の職員がよく考えていくことが必要だと感じた。

● **総括(前回視察した岐阜市立藍川北学園との比較や規模感についての所感など)**

- ・地域の方々の関わり方が本当にすごいと思った。一方で今後これまで通りの協力が得られるかを考えていかなければならないと感じた。
- ・地域との交流を大事にして、子どもが自立するためのイメージが湧きやすい。
- ・藍川北学園とは規模が違うのと、環境の違いもあるが、両校とも子どもたちは落ち着いているように感じた。
- ・施設のきめ細やかさはすばらしく、敷地面積が狭くても、4・5階建てにすればオープンスペースが生み出せると感じた。
- ・スペースがあっても活用できる創造性は先生方に求められる部分があるため、このスペースは何のために作られたか、明確になっていると良いと感じた。
- ・今後50～60年を見据えた上で、施設の管理運営や、既存校舎の改修もしくは新築のどちらがよいか等の検討が必要である。

## 2) 交野市立交野みらい学園

- **生徒の様子と学校の雰囲気(異学年の関わり、学校全体の活気や落ち着きなど)**
  - ・落ち着いて授業を受けている。(心に余裕を持てる環境づくりがされている)活気はあるように感じた。(複数回答)
  - ・廊下等、様々な空間が広くとってあること、オープンスペースが多くある環境などにより、生徒たちは圧迫感なく過ごせている。
  
- **授業の様子(教科・学年、指導の工夫※教科担任制や乗り入れ、学年間の指導内容の入替や前倒し、独自教科など)**
  - ・5学年及び6学年のすべての教科において教科担任制が導入されており、特に体育、図画工作、家庭の3教科は後期課程の教員が担当するなど、前期課程の段階から専門的な教科指導が推進されていた。(複数回答)
  - ・中学校教諭による小学生の教科指導は、学力の向上や中1ギャップの軽減に効果的なのではと思う。
  - ・行事ごとに学年の区切りを分けることで、発達段階への配慮がされていた。
  
- **義務教育学校のメリットとして感じたこと**
  - ・前期課程の児童と後期課程の生徒のかなり年の離れた異学年の交流が日常的にできることが最大のメリットである。どこの義務教育学校においても、後期課程の生徒がしっかりしてくるという効果を非常に感じていた。(複数回答)
  - ・9年間を見通した教育課程を編成することで、目標達成に向けて切れ目のない指導が可能となる。(複数回答)
  - ・前期課程での教科担任制が導入しやすく、これも大きなメリットである。
  - ・通常の学校では複数配置ができない養護教諭の複数配置が可能になるなど、教員配置上のメリットも非常に大きい。
  - ・同じ校区に小学校と中学校がある場合、どうしても小学校が地域とは近い関係になりがちだが、義務教育学校であれば前期課程・後期課程が関係なく地域と一体となって教育活動が展開しやすい。
  
- **義務教育学校のデメリットとして感じたこと**
  - ・特になし。(複数回答)
  - ・先生の数が多いことによって、先生同士のコミュニケーションが取りづらいのではないかと。

● **教育環境の内ソフト面(学校運営など)について感じたこと**

- ・3ステージ制を導入し6-3制を柔軟に変更して、近年の児童生徒の発達段階に応じた指導体制がとれることが非常に大きな利点として感じている。
- ・前期課程と後期課程の教員が一緒に校内研修を行うなど、校長、副校長等の管理職が双方の教員のつながりを重要視するとともに、教員の声を聴き、新たなことへ挑戦する姿勢を大切にしている組織作りを心掛けていた。
- ・地域とともにある学校として、コミュニティ・スクールが効果的に活用されている印象である。
- ・教科担任制がさつき学園と同様に、早期から導入されていたが、人数にも限界があるので、場合によっては地域の人材を活用する場を設けているのがよかった。
- ・1年生から9年生まで幅が広いので、全体で共通理解したことを各学年にしっかりと落とし込む必要があると感じた。

● **教育環境の内ハード面(施設・設備など)について感じたこと**

- ・ガラス張りでオープンな教室、非常に余裕がある教室外のスペース、広々とした屋外のテラス等、児童生徒同士が交流しやすい作りとなっていた。
- ・1,000人を超える規模の義務教育学校であるが、下足箱、教室等が児童生徒の動線が考えて配置されており、大規模を感じさせない雰囲気であった。
- ・9年生などの教室はもっとゆったりとした広さがあると良い。
- ・オープンなスペースが開放感を与えるが、教室と比べて空調の効きが弱いようで、暑さや寒さの観点では課題があるように感じた。
- ・一部の施設については、小学生と中学生が同じ設備(バスケットゴール・調理室の机など)を使うため、高さを変えられるようにしてあることがよいと思った。

● **総括(前回視察した岐阜市立藍川北学園との比較や規模感についての所感など)**

- ・守口市立さつき学園と交野みらい学園との共通点として、3ステージ制を導入し各ステージごとにフロアを分けていること、前期課程から教科担任制を導入していること、教室外のスペースに余裕を持たせて異学年交流を積極的に行っていること、地域住民が活用できるスペースをきちんと設けていることなどが挙げられ、これらは非常に参考になるものと考えている。
- ・規模の大小はあるが、上級・下級学年の交流がうまくできていると感じた。
- ・1,000人を超える規模の義務教育学校であったが、学校運営に特別な難しさがあるとは感じなかった。
- ・教職員が多くなるため、一層の組織力が必要となるが、ミドルリーダー等の教職員の育成にもつなげやすいと感じた。
- ・安全面で、今後地域住民からの協力が継続的に得られるかどうか。全体的なセキュリティーをどうするのか検討が必要である。
- ・オープンスペースの在り方を考えさせられた。暑さ、寒さに対応した校舎の建設が必須である。
- ・発達(学年)に応じた教室の広さも考慮するべきである。
- ・義務教育学校は児童生徒数が多い学校ほど教科担任制が仕組みやすいようである。統合によりある程度の児童生徒を集めることで、乗り入れ指導を含め、専門性の高い教師による指導が可能となると感じた。